
持論

中田 勘

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

持論

【Nコード】

N4967N

【作者名】

中田 勘

【あらすじ】

僕の持論を語ってみただけです。

僕は一つ持論を持っている。

それは『世の中は公平である』という事。

ほとんどの人は、そんなことはありえないと言っただろうけど、それはその人の見る目が狭いためだと思う。

僕の持論を聞くと、お前の視野が広すぎると言われることがある。それでも僕の視野は広くなんかは無い。

世界は不公平じゃない。

世界は公平に出来ているんだ。

世界にはとても多くの独立国があり、その中で裕福な国と貧困な国があることは誰でも知っている。

もつとも裕福な国も貧困な国も大体の地域がという意味であって、国全体がそうだと言うつもりはない。

裕福な国があつて貧困な国がある。

見てみる、これで±0だ。

もつとも国の数が1対1で均等が取れる場合や、3対1など多くのパターンがあるからもつと複雑なことがこの世では起こっている。例えば不幸の受け渡した。

分かりやすい例はゴミの放流。

本来ならば自国で廃棄するべき物だ。

もし自国で廃棄されたなら、不要な気体は自国のなかに舞っただろう。

廃棄するための金は当然必要となっただろう。

当然世界の中で均等が取れているなら、国の中でも幸福な人と不幸な人の均等が取れている。

ちなみにここで単位として家庭を使わないのは、近年結婚者数が減

少しつつあるからだ。

誕生会のある人やクリスマスのある人。

逆に金銭的に人、生きる希望をなくした人や勤めている会社がうまく行かない人。

様々な心境をした人が複雑に絡み合って絡み合って均等化が取れている。

ここでもまた不幸の受け渡しが行われている。

一例として犯罪がある。

恨みを持つ人は一例として人に傷害を与える。

恨んでいる人は気分が晴れて、恨まれた人は深く傷つく。

当然恨みが絡んでいる場合もある。

突発的だったり、食欲や性欲などといった欲求を晴らすために犯罪行為を行う人もいる。

不幸の受け渡しは世代を超えることも少なくない。

例えとしてまずある家庭があるとし、その亭主はそこその立場にある人だったとする。

親は子を不条理に叱る事がある。

親は果たしてなぜ不条理に子を叱るのだろうかという、それは親同士の喧嘩をしたからかもしれないし、会社でのストレスを発散させるためかもしれない。

亭主は上司の立場を使いあまりにも酷く部下を叱る。

なぜ叱るかという上司はまだ自分が未熟だった頃に、今自分がしているように部下に叱られたからだ。

もし反抗でもされたら『俺だってお前と同じ立場だった頃には、こういう扱いを受けていたんだ』そう主張されるだろうし、そもそも言葉での反抗はあまりされない。

ただ陰口は言われて、それからまた陰口が上司の耳に入りと悪循環が続く。

前置きが長くなってしまったが、子は親に不条理に叱られた経験を

そのまま、親になって自分の子にまた行う。
それは世代が世代を超えた不幸の受け渡しだ。

僕はこの世の事を完全に把握しているほど神様じゃないけど、寸文の違いなく世界は平等であると主張する。

僕が思うことは近年平等の平均が低くなっているという事だ。

もともと恨みの無い犯罪が多く起こっている。

強盗や立てこもりなどといったものから、虐めなど犯罪ではないものの、もともと恨みのないところから不幸の念が生まれるものまで盛り沢山だ。

だから不幸ばかりが溜まって、幸せ者がいくら頑張って幸せになろうとしても、それでも人が堕ちる方が遥かに楽だ。

地球は現在約2000年だから、もう2000年ほど持つだろうか。紀元前という期間も有るのだから、地球にはせめて2000年ぐらいは頑張ってもらいたい。

もともと地球をどうするかは人間の自由で、人が堕ちるのは楽で、幸せになるよりも時間がかからないのが現実だが。

（後書き）

あとがきといいても、言いたい事はあらかじめ言ったのでとくには無いですね。

なのでいつもの事ですけど意味のある分は書きません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4967n/>

持論

2010年10月9日06時28分発行